

# 相馬農業高校の取組と地域との連携活動

## 相馬農業高校農業クラブ

みなさんこんにちは。相馬農業高校農業クラブです。はじめに、本日の発表メンバーの自己紹介をさせていただきます。

### 1 はじめに

私たちの学び舎、福島県立相馬農業高校は、福島県浜通り北部（相双地方）の南相馬市にあります。東京電力福島第一原発からは約25kmの位置にあるため、一時は、緊急時避難準備区域に指定され、避難を余儀なくされました。

私たちの暮らす、相双地方といえ、何ととっても「相馬野馬追」が有名です。一千猶予年の歴史と伝統を持つお祭りで、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。騎馬武者姿の侍が、行列や競馬、神旗争奪戦などを繰り広げます。震災後、開催が危ぶまれましたが、現在では震災前と同様、3日間の全日程で開催されています。

震災後、本校は一時、隣接する相馬市にサテライト校を設置し、避難指示が解除されるのを待ちました。避難指示解除後も、問題は山積していましたが、元の校舎に戻って学業を再開し、2013年には創立110周年を迎えることができた歴史と伝統のある農業高校です。

本校は、農業を学ぶ専門高校であり、生産環境科、環境緑地科、食品科学科の3学科、各学科2コース制の6コースでの授業を行っています。

学校の特色としては、全国にも類を見ない複数の伝統芸能を継承していることです。御神楽部、流山踊部、陣貝部、田植踊部、宝財踊部の5つの部門があり、毎年、地域の皆さんに披露しています。今年は10月29日の相農祭（学園祭）で地域の皆さんに発表しました。

農業クラブは、全国8万人の農業を学ぶ高校生が加盟する農業学習の成果を競い合ったり、研究活動を通じて地域のボランティアに貢献したりする組織です。相馬農業高校農業クラブでは、クラブ員の「科学性」「社会性」「指導性」の向上を目標に掲げ、「地域に元気を発信しよう！」を合言葉に活動しています。震災後、地域に根ざした日々の学習、調査・研究に励み、着実に成果を上げていますと実感しています。

本校農業クラブは震災以降、地域に元気を発信する活動として「世界最大のシ

ードアート制作」や「菜の花プロジェクト」、「ハマナスプロジェクト」など、私たちの元気を地域に届ける活動にチャレンジしてきました。震災から5年半が経過しました。当時、私たちは、小学校4年生～6年生でした。世界中から多くの支援をいただき、今の生活を取り戻すことが出来ています。しかし、未だに数多くの皆さんが避難生活を余儀なくされ、ふるさとの農業は今でも多くの問題を抱えたままの状態にあります。

そのような状況下において、先輩から引き継いだ相農魂をもって、私たち農業クラブは地域社会に貢献できることは何かを常に考え、地域の皆さんや地域を訪れるボランティアの皆さんと共に活動してきました。私たちは実感しています。後ろばかりを向いてはいられないことを。私たちのように若い世代が地域の希望で有ることを自覚し、一步ずつ確実に前進していかなくてはいけないことを。

## 2 私たちの考える地域の問題

私たちは、これまでの生活や地域での活動から感じている地域が抱える問題をまとめると次のようになると考えています。

- (1) 人口の流失、特に若い世代の人口減少
- (2) 地域コミュニティの弱体化
- (3) 基幹産業であった農業の衰退

## 3 問題解決に向けた私たちの取組

### (1) 郷土愛を育み、進路意識を向上させるために

本校では、各学年において地域企業の方と直接接する機会を設けています。

1 学年では、地域企業に訪問し職業インタビューを実施しています。

2 学年では、上級学校見学会や3日間のインターンシップで職業体験をすることで勤労観を養っています。卒業生の先輩と一緒に働くことも多く有り、職業選択に大いに役立っています。

3 学年では、企業の方に来校いただき合同企業説明会を実施しています。また、企業訪問を積極的に行い、進路決定のために努力しています。

近年は、進路内定率100%、就職者のうち、約9割が地元就職をし、地域社会を支える人材となっています。

## (2) 小・中学生に向けて、農業や本校の学習をPR

高校生が小学生の先生となって実施する「パン作り教室」や地域の小・中学校を訪問して出前授業を行ったり、高校に来て実習体験をしたりするなど、農業や農業高校への理解を深める活動を実施しています。

さらに、毎年夏休みに行われる中学生1日体験入学では、各学科において、特色ある体験的プログラムを組み、本校や農業の魅力をPRしています。

## (3) 地域の皆さんと共に元気を発信！農業の魅力を再確認

### ① 世界最大のシードアート制作

地域活性と情報発信に向けて取り組んだ世界最大のシードアート制作は、数多くの地域の協力と支援をいただき、2014年3月23日に完成しました。

このアート作品を通じて、地域の皆さんと一緒に地域での農業と食の問題について若者の視点から問題提起することができました。

そして、9月には、イギリスのギネス本部から認定書が届きました。このシードアートは、多数のメディアに取り上げていただき、南相馬の地域と農業に対する思いを発信することができました。そして、達成感が得られただけでなく、私たちの絆を深めることができました。

### ② 地域に開かれた農業高校を目指して

#### ア 農場生産物の販売と相農ショップ

創立113年を迎える本校は、日頃の学習の成果を生産物や加工品として地域に販売しています。春には、野菜苗の販売とカーネーションをはじめとした販売会を行っており、地域の皆さんに大盛況です。また、相農ショップは年7回開催し、食品科学科の生徒が作るパンをはじめとした各種加工食品と農産物を販売しています。多くの地域の方に来場いただき、大変喜んでいただいています。

校外での販売活動も活発に行い、JA祭りでは、本校の生産品や加工品を販売し、地域農家の方と交流を深めています。

#### イ 南相馬市学校開放講座

本校の特色を活かした市民講座を各学科で実施しています。学校施設を活用し、先生と生徒が一緒になって講師を務め、講座を盛り上げています。私たちの学習成果を通して、地域の皆さんとの対話が図られ、地域の活性化に貢献できています。

#### ウ ふるさと復興を目指した地域づくり

ここから復興にむけた私たちの活動を紹介します。

私たちはこれまで、震災後の地域の在り方について考える「ふるさと復興会議」に参加し、多くの方たちと意見交換をしてきました。また、ふるさとの復興・再生にむけたワークショップにも参加し、これからの地域の歩むべき姿について検討を重ねています。

津波の跡地に、苗木を植える活動「南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」は、今年で4回目となります。毎回、本校クラブ員が植樹リーダーとなって、大勢の参加者をサポートしてきました。学校からも、たくさんの生徒がボランティアとしても参加しています。

私たちは、地域の稲作復興に向け、アントニオ猪木さんやIGF所属プロレスラーの皆さんと一緒に、福島県オリジナル品種「天のつぶ」の栽培を行いました。南相馬の豊かな気候のもとで育ったお米は「元氣米」と名付けられ、地元JAから販売され、一緒にPR活動を行いました。この活動が、地域の農業に元気を与え、ふるさとの農業の再開に貢献できたと実感しています。

震災後6年となる今年、本校の水田で初めて作付けが再開されました。今年秋、その収穫イベントが、作物専攻班が中心となって開催され、延べ200名が集いました。福島県オリジナル品種「天のつぶ」の田植え・稲刈り作業を行われ、子供からお年寄りまで、泥んこになりながら、稲作再開の喜びを共有しました。

このように、本校は地域になくてはならない農業高校として、地域の復興にむけて、着実に前進して参りました。

### ③ 地域と共に発展する農業クラブ活動（連携活動）

#### ア 農業・農地再生に向けた菜の花プロジェクト

今年で5シーズン目を迎えた、菜の花プロジェクト。塩害に強く、放射性物質が検出されないことに注目して始まった取り組みも、現在では6次化などの新たな動きとともに地域を動かすビックプロジェクトに成長しました。

栽培面積と栽培農家が増加し、6次化商品「油菜マヨ」が誕生しました。現在はドレッシング製作に取り組んでいます。また、世界的化粧品メーカー「LUSH」からは「つながるオモイ」と名付けられた石けんが販売され、大反響を呼びました。

#### イ ハマナスの保全活動と南そうま福幸植樹会

震災後、ハマナスの研究と保全・普及活動に取り組み、福島県中高生の科学技術論文・野口英世賞を受賞するなど、活発な活動が行われてきました。

この活動がきっかけとなり、私たちを中心に同じ思いで繋がる諸団体が力を

合わせ、南そうま福幸植樹会を設立し、植樹会を開催しました。

この活動は、農業クラブ員が一丸となって各学科で学ぶ専門知識を最大限に発揮した活動です。地域を巻き込んだ産学官連携の大きな地域活性化プロジェクトともなっています。

植樹会は、昨年5月と今年3月に実施され、「希望が花ひらき 夢が実を結ぶ まち！新生・南そうま」のキャッチフレーズのもと、延べ400名の参加者が集い、ハマナスを中心に18種1000本の苗木で植樹公園を作り上げました。

現在、福島県の農産物は全て放射線モニタリング検査を実施しなければ流通や販売が出来ません。私たちは、これまでのハマナス生産を県に訴え、その他の果実30番として先日、認められ、モニタリング検査結果は不検出となり、農産物としての一步を歩み出しました。また、地域ブランドとしての確立に向けて商品開発とパッケージデザインにも取り組み、キャンペーン展開も企画しています。

#### ウ 地域との連携から地域外への発信

昨年からは、地域の諸団体と共に、南相馬市と災害協定都市を結ぶ自治体（東京都杉並区、茨城県取手市、北海道名寄市等）を訪問し、ふるさと南相馬をPRする交流活動を行ってきました。さらに、これまでの活動は、テレビや新聞などで大きく取り上げられ、私たちの活動を広く紹介するとともに、地域内外に大きな反響がありました。

福島の花を東京渋谷へ届ける活動も今年で3年目を迎えました。今年は、「渋谷公園通りフラワーフェスティバル2016」にあわせ、1日約150万人の人が往来する渋谷の街に、本校で生産したベゴニアの苗1,000本がプランターに植栽されました。イベントでは、ベゴニアの植栽と南相馬で栽培された花苗の配布、さらに、熊本地震の募金活動を行い、福島の元気を届けてきました。先日は、本校で生産したビオラとシクラメンが渋谷へ向けて出発したばかりです。

他にも、数多くの活動に参加し、私たちの元気を全国に発信し続けています。

これまでの活動から、お声がけをいただき、今年8月に学習院大学で行われた「日本環境教育学会第27回大会」に参加しました。ポスター発表、環境教育メッセでの販売活動、プロジェクト研究の活動報告発表を行いました。日頃の活動が評価され、様々なご意見を頂く、大きなチャンスを得ることが出来ました。

#### 4 まとめ

113年の歴史と伝統を誇る本校は、地域とともに歩んできた農業高校です。「農業高校にできること」ではなく、「農業高校だからできること」にクラブ員一丸となって取り組んできました。

震災を乗り越えてきた「根性」、数多くいただいた支援への「感謝」、そして、この地域を自分たちが支えていこうとする「使命感」をもってこれからも活動を盛り上げていきます。

地域の基幹産業であった「農業」を再興させるため、ふるさとの農業を再考し、最高の農業を、そして素晴らしいふるさとを取り戻したい。

私たち相農生は、「地域に元気を発信！」を合言葉に、「相農魂」をもって、ふるさとを守り伝える活動を続けます。

本日は、世界各国から日本、そしてこの福島にお越しいただき、私たちの活動をお聞きくださり、誠にありがとうございました。本ワークショップの成功を心よりご期待申し上げます。私たちの発表とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。